

「環境都市」で日中協力

環境省は中国・国家発展改革委員会と、中国の環境問題および都市問題の解決に向け、協力の体制の構築を検討に入ることを決めた。中国・江蘇省の鎮江市をモデル都市として省エネや創エネ、自然共生を実現する街づくりを目指す。環境省は日本の優れた環境・省エネ技術を中国に売り込み、産業界のビジネス拡大を支援したい考え。両者は年内にも北京でシンポジウムを開き、具体的な協力体制について意見交換する方針だ（村山茂樹）

鎮江市に自然共生の街

「日本の先進的な技術を投入するチャンスとして、より高いレベルの協力を進めていきたい」。6月2日に都内で開かれたシンポジウム「生態文明社会建設を目指した日中協力メカニズム」の形成に向けて、中国・国家発展改革委員会の袁喜禄発展計画司副司長は、日中協力による環境・都市問題の解決に期待を寄せた。

中国は経済成長に伴う急速な都市化が進んだ結果、渋滞や公害、自然破壊などが深刻化。中国共産党は2012年2月に開いた第18回党大会で環境・都市問題の解決に向け「生態文明建設」を目標の一つに掲げた。袁氏は「生態文明建設は新世代の戦略であり重要だ」と強調する。

同シンポは環境省と鎮江市が主催し、朱曉明・鎮江市市長が生態文明建設を具現化する鎮江市を対象にしたプロジェクトを説明した。200平方キロメートルのエリアに100万人規模の新都市を建設する。路面電車

を城内交通の中心に据え、計画エリアの55%を市街地化、残りの45%を農地、水面・緑地とする。「ジエネレーションとCEMS（地域エネルギー管理システム）」により、環境負荷の少ない省エネ・創エネ型都市を目指す。朱市長は「環境に配慮した発展モデルをつくる。2030年に「ニューシティー」を完成させたい」と意気込む。

パネルディスカッションに参加した環境省の南川秀樹事務次官は「生態文明建設に注目している」と発言。中国との協力について「日中両国の環境・資源問題の解決を目指す」「日中相互に経済や技術を共有する新しい政策分野を開拓」など、5つの目標を提示し、前向きな姿勢をみせた。

今回のシンポをステップに、今後は具体的な協力体制をどう



構築するかに焦点が移る。鎮江市のプロジェクト計画を主導し、パネルディスカッションの司会を務めた東京経済大学の周牧之教授は「成功させるためにはビジネスモデルの創出が重要。そのためメカニズムをいかにつくるかができるか」と指摘する。環境省と国家発展改革委員会の連携の下、産業界にとってビジネスし

シンポジウムで中国の新都市建設に向けた日中協力について意見交換

やすい環境づくりが求められている。年内にも第2弾となるシンポジウムを北京で開く予定。実のあるモデルとするために、産業界を巻き込んだ協力体制の構築が重要となりそう。

解決に向け「生態文明建設」を目標の一つに掲げた。袁氏は「生態文明建設は新世代の戦略であり重要だ」と強調する。

同シンポは環境省と鎮江市が主催し、朱曉明・鎮江市市長が生態文明建設を具現化する鎮江市を対象にしたプロジェクトを説明した。200平方キロメートルのエリアに100万人規模の新都市を建設する。路面電車を城内交通の中心に据え、計画エリアの55%を市街地化、残りの45%を農地、水面・緑地とする。「ジエネレーションとCEMS（地域エネルギー管理システム）」により、環境負荷の少ない省エネ・創エネ型都市を目指す。朱市長は「環境に配慮した発展モデルをつくる。2030年に「ニューシティー」を完成させたい」と意気込む。

パネルディスカッションに参加した環境省の南川秀樹事務次官は「生態文明建設に注目している」と発言。中国との協力について「日中両国の環境・資源問題の解決を目指す」「日中相互に経済や技術を共有する新しい政策分野を開拓」など、5つの目標を提示し、前向きな姿勢をみせた。

今回のシンポをステップに、今後は具体的な協力体制をどう構築するかに焦点が移る。鎮江市のプロジェクト計画を主導し、パネルディスカッションの司会を務めた東京経済大学の周牧之教授は「成功させるためにはビジネスモデルの創出が重要。そのためメカニズムをいかにつくるかができるか」と指摘する。環境省と国家発展改革委員会の連携の下、産業界にとってビジネスしやすい環境づくりが求められている。

年内にも第2弾となるシンポジウムを北京で開く予定。実のあるモデルとするために、産業界を巻き込んだ協力体制の構築が重要となりそう。

事業モデルの構築がカギ